

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

東栄町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県北設楽郡東栄町

3 地域再生計画の区域

愛知県北設楽郡東栄町の全域

4 地域再生計画の目標

少子高齢化社会の進展に伴い、東栄町の人口は昭和 30 年以降減り続け、平成 31 年（2019 年）4 月 1 日時点の人口は 3,195 人、高齢化率は 49.8%となっている（出典：住民基本台帳）。

本町の年齢 3 区分別の国勢調査における人口推移をみると、平成 17 年以降はすべての区分において減少が見られる。また、平成 22 年（2010 年）には高齢人口が生産年齢人口を上回った。平成 27 年では年少人口 279 人、老年人口 1,680 人、生産年齢人口 1,487 人となっている。

自然動態については、死亡数が増加傾向にある一方で、出生数は緩やかな減少が続いている。愛知統計年鑑によれば平成 29 年では、出生数 9 人、死亡数 92 人で 83 人の自然減となっている。また、合計特殊出生率では約 5 年周期で 2.0 を超える年があるものの、減少傾向にある。平成 29 年では 0.91 となっている。

社会動態については、平成 24 年度（2012 年度）及び平成 25・26 年（2013・2014 年）は企業移転や空き家活用住宅等の整備により転入が増加した。平成 30 年度（2018 年度）には転入者が 86 人であったのに対し転出者が 82 人であり、4 人の社会増となるなど、移住定住施策は一定の成果を出し、飲食店などの相次ぐ開業、振草川の鮎のグランプリ獲得による釣り客や観光客の増加など、新たな賑わいも生まれている。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所による推計によると、本町の人口は令和 22 年には約 1,800 人になることが見込まれている。

こうした人口減少や年齢構成の変化により、地域の担い手減少、後継者不足に起因した商店の廃業、地域における自助や互助力の低下といった多くの地域課題が発生している。また、公共施設等の老朽化により、今後の更新や維持管理には大きな財政的負担が必要となる見通しであるなど、地域課題解決は容易ではない。

町が将来にわたって賑わいを保ち続けるまちであるために、これまでの成果を生かしながら、町の価値を追求し、戦略的なまちづくりに取り組む。人口ビジョンが掲げる2040年に人口2,250人を目指すという将来人口展望を達成するため、地域内経済を活性化させ、産業と暮らしの循環により暮らしやすいまちづくりを行い、次世代へとつないでいく。なお、これらに取り組むにあたって、次の事項を本計画の基本目標とする。

- 基本目標1 人の流れづくり 人が集う場所づくり
- 基本目標2 まちの魅力づくり 民間が稼ぐまちづくり
- 基本目標3 東栄らしい子育てができる住環境づくり
- 基本目標4 まちの未来予想図づくり
- 基本目標5 暮らし続けられるまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (R6年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	東栄医療センター・保健福祉センターの本郷地区への整備	0件	1件	基本目標1
	まちなかターミナル内事業者数	133事業者	125事業者	
	町営バスの年間乗降客数	34,578人	34,100人	
イ	事業者同士の連携件数	1件	20件	基本目標2
	観光年間入込客数	199,414人	210,000人	
	奥三河の観光に関するSNSフォロー数	1,199人	15,000人	

	町内の事業者数	201事業者	170事業者	
	新たな起業者数	5事業者	19事業者	
ウ	出生数(直近5か年平均)	13人	13人	基本目標 3
	一学年の平均児童生徒数	18.7人	18人	
	まちづくりを考える機会への中 高生の参加者数	0人	5人	
エ	集落カルテの作成策定地区数	1地区	14地区	基本目標 4
	森林環境譲与税を活用した境界 確定	0 ha	1,250ha	
	地籍調査重点モデル地区数	0 か所	1か所	
	土地利用計画の策定	0 件	1 件	
オ	集会施設の数	43施設	43施設	基本目標 5
	まちづくり座談会への参加者	20人	50人	
	議会傍聴者数(年人数)	60人	70人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例(内閣府)：【A2007】

① 事業の名称

東栄町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 人の流れづくり 人が集う場所づくり事業

イ まちの魅力づくり 民間が稼ぐまちづくり事業

ウ 東栄らしい子育てができる住環境づくり事業

エ まちの未来予想図づくり事業

オ 暮らし続けられるまちづくり事業

② 事業の内容

ア 人の流れづくり 人が集う場所づくり事業

医療・保健・介護・福祉の連携拠点や、教育施設、商店等の暮らしに必要な機能が集積する地域を「まちなかターミナル」として人が流れ、集い、賑わう地域にするための事業。

【具体的な事業】

- ・医療・教育・買い物・役場等の機能が集まる地区の利便性向上
- ・一度に用が足せ、楽しめる地区の整備
- ・公共交通の充実による生活利便性向上とまちなかの面的再生 等

イ まちの魅力づくり 民間が稼ぐまちづくり事業

暮らしを支える商業や産業を続けていくために、商業や産業に関わる事業者が連携して利益を生み出すための仕組みをつくる事業。

【具体的な事業】

- ・商業や産業が「利益」を生み出すための戦略的なつながりづくり
- ・賑わいのための事業者確保 等

ウ 東栄らしい子育てができる住環境づくり事業

きめ細やかな子育て支援体制と、自然豊かな環境を活かした住宅施策により、保護者が働きながらのびのびと子育てできる環境づくり事業。

【具体的な事業】

- ・たくさんの子どもを育てられるまちづくり
- ・きめ細かな子育て・教育環境の整備
- ・子どもたちとともに未来を考える機会の創出 等

エ まちの未来予想図づくり事業

「将来にわたって賑わいを保ち続け、安心して暮らし続けられる」未来の町の姿を目に見える形にすることで、子どもからお年寄りまで全ての世代の人が町の展望を知り、町や自分の未来を想像できるようにするため未来予想図をつくる事業。

まちづくりに必要な判断をともに行うため、住民と行政が暮らしに関する情報共有を行うための仕組みをつくる事業。

【具体的な事業】

- ・地域と行政が共に行う暮らしのあり方点検と目指す姿の共有
- ・施策と連動した土地の利活用検討 等

オ 暮らし続けられるまちづくり事業

時代の変化に応じたまちづくりを進めるための人材育成事業。

地域での暮らしを支えるための取り組みなどを通じ、まちづくり人材としてお互いに育ち合い、産業と暮らしの支え合いにより賑わいが持続するまちを実現する事業。

【具体的な事業】

- ・適切な資源管理による暮らしの持続性の確保
- ・暮らしを支えるための戦略的なセーフティネット構築に向けた地域づくり 等

※ なお、詳細は第2期東栄町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

200,000千円（令和3年度～6年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

例年行う5月の自己評価及び9月の外部評価による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する、検証結果は町ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年（令和7年）3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年（令和7年）3月31日まで